

Istanbul Weekly vol.4-no.26

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2015年7月10日（金）

— 今週のポイント —

- 政治：**エルドアン大統領、ダーヴトオール首相を首班指名。
ダーヴトオール首相、「再選挙」の含みを繰り返す。
- 経済：**6月の金の輸入が対前年同期比95%減。
5月の工業生産高2%減少。
- 治安：**中国外務省、中国人のトルコ訪問に注意喚起。
ISILがトルコ語の機関紙を創刊、トルコでのリクルートに力を入れる模様。
- 軍事：**トルコ軍シリア国境沿いの司令官会議でシリア侵攻計画を協議か。
米国の代表団とトルコと対ISIL協議。
- 社会：**エフェスがついに世界遺産に登録。
イズミット大橋、2016年開通予定。

政治

【内政】

●エルドアン大統領主宰の4回目の閣議が開催

6日、エルドアン大統領主宰としては4月20日以来4回目となる閣議が開催された。6月7日総選挙後にダーヴトオール首相が辞表を提出し、新政権発足までの暫定内閣として存続する中での閣議となった。4時間半にわたって行われた同閣議では、シリア情勢、テロ対策、クルド和平プロセス、経済情勢等が協議された。(7月7日付M紙16面)

●CHP、組閣プロセスの遅れを批判。

クルチダルオール CHP 党首は、総選挙から1ヶ月が経っても、エルドアン大統領による首班指名が行われないことについて「AKPは、トルコを再選挙に導こうとしている。組閣プロセスが長引くほど、国民の間に再選挙の正当化の空気が生じることを狙っている。『単独過半数政党が出なかつたから、組閣がなされない。その責任は野党だ。』と述べようとしている。」と批判した。

●ダーヴトオール首相、「再選挙」の含みを繰り返す。

7日、ダーヴトオール首相は、ヴァンで行われたイフタール（断食明けの食事）の席上、「トルコを政権不在の状態にしないよう努力する。しかし、野党が再総選挙に駆り立てようとするのであれば、我々は躊躇しない。」と述べた。また、8日にも党青年部の会で、「国民の意思を尊重する。しかし、あらゆる努力を払った後に国民の意思を問う必要がある。そのための再選挙の準備はできている。」と述べた。(7月8日付S紙22面ほか)

●国会議長会議が成立

ここ数日間、各党間の調整が難航していた国会議長会議の構成について、前日に全18名（AKP8名、CHP6名、MHP3名、HDP3名。副議長は各党から1名ずつ）とすることで各党が合意したことに基づき、9日に開催された国会本会議で、

各党が推薦した議長会議の構成メンバーが与野党の賛成多数で可決され、国会議長会議が成立した。(7月9日付M紙インターネット版他)

●エルドアン大統領、ダーヴトオール首相を首班指名。

9日、エルドアン大統領は、6月7日総選挙で第1党となったAKPのダーヴトオール首相を首班指名した。同首相は、来週（13日の週）から野党各党との連立協議を開始することを言明し、組閣作業が正式に開始した。憲法第116条に基づき、仮に45日間（8月23日まで）以内に組閣が実現しない場合、大統領は国会議長と協議した上で、再選挙を決定し得る。(7月9日付M紙インターネット版)

●バフチェリ MHP 党首、連立に前向きな発言。

9日、バフチェリ MHP 党首は、「トルコの主要課題を解決することを目指す連立政権の発足が最優先課題である。MHPは、不安定な状況を生じさせないため身を捧げる。」との趣旨の発言を行った。(7月9日付M紙インターネット版)

【参考論調】

●組閣の「遅れ」と再選挙を巡る憶測

(1)総選挙から1ヶ月経つが、組閣が行われていない。過去には、高等選挙委員会の確定選挙結果の公表から概ね1週間程度で組閣が行われている（注：今回の選挙結果確定は6月18日）。大統領は、国会議長会議の発足を待って首班指名すると述べている。しかし、国会議長会議の発足を待たなければならない規定はない。エルドアン大統領が再選挙の実施に向けて時間稼ぎをしているように映る。(7月7日付H紙、メフメット・ユルマズ論説員)

(2)首班指名が遅れていることについて、現状では（AKPが本音で望んでいると見られる）再選挙の日程は11月15日となり、これではアンタルヤでのG20首脳会合と投票日が重なるため、国会議長会議の発足を待つという形をとって再選挙投票想定日を11月22日にずらしたのでは、との憶

測を呼んでいる。しかし、議員との意見聴取を重ねると、再選挙ではなく早期の連立政権発足を望む声ばかりだ。再選挙を実施してもどんな結果をもたらすかわからないことをみな分かっている。(7月8日付HT紙ムハレム・サルカヤ論説員)

経済

【マクロ経済】

●6月の金の輸入が対前年同期比95%減

本年6月の金の輸入量は、対前年同期比95%減、対前月比18.1%減の1.35トン。1~6月における輸入量は、対前年同期比77.1%減の11.33トン。2014年は年間で131.3トンの輸入量であったが、これも対前年比では57%減。(7月7日付HD紙10面)

●ユーロの対ドル安の輸出への影響

トルコの輸出の45%はユーロで支払われている一方、輸出業者は中間財コストの大部分をドルで支払っているため、ギリシャ危機の影響を受けたユーロの対ドル下落の動きはトルコの輸出に影響を及ぼす恐れがある。トルコ・ギリシャ間の貿易額は56億ドル、うち輸出額は15億ドルであり、ギリシャへの輸出は、トルコの輸出額全体の1%に相当する。(7月7日付TZ紙1面、7面)

●5月の工業生産高2%減少

統計庁が8日に発表したデータによると、5月の工業生産高は前月比で2%減少した。鉱業・採石業の生産高は同4.2%下落した。製造業では、コンピュータ・電子光学製品が同34.8%下落し、自動車は同12.2%下落。年間ベースの工業生産高は2.9%増加。(7月9日付HD紙10面)

【経済政策】

●家電製品等へ追加関税

ゼイベキジ経済相は2日、来月にも家電製品等に対して追加的に関税をかける予定であると発表した。(7月3日付HD紙10面)

【観光業関連】

●観光業の現状

観光業は、トルコが外貨を稼ぐために最も重要な部門であり、観光の純収益はトルコの慢性的貿易赤字額縮小に貢献しているが、現在、ロシアの石油価格下落やルーブルの急速な下落により不調である。一方で、ウルソイ・トルコ旅行業協会(TURSAB)会長は、中東地域の不安定な動きにも関わらず、トルコが安全で平和な国であることにより2015年のトルコへの訪問客数は減少せず、4200万人以上になると予想している。(7月6日付HD紙10面)

●観光業界、国内観光客需要を期待

トルコ旅行業協会(TURSAB)は、アンタルヤでロシアからの観光客が減少している中でラマダン後の国内観光客増加が期待できると述べた。今年のホテル室料が昨年比20%下落している点も国内観光客増の追い風になると見られ、同地域では宿泊客の35%が国内観光客となると見込んでいる。(7月8日付HD紙11面)

●パムッカレの観光客、昨年より減少

今年上半期にパムッカレを訪れた観光客数は、前年同期比1%減少し70万人であった。関係者は、現在の同地域におけるホテル稼働率は60%だが、ラマダン後には90~100%まで上昇すると予想。一方で、民間には、実際には観光客数は当局発表よりも減少しており、厳しい状況であるとの見方がある。(7月9日付HD紙10面)

【企業等の動き】

●TurkcellとAselsanが5G共同開発へ

7日、トルコ携帯電話会社最大手のTurkcellは、防衛関連企業Aselsanとの間で5Gの共同開発に関する枠組み合意に署名したと発表。両社は5G技術のロードマップ開発において協力していくとしている。(7月7日付HD紙11面)

●既存のモデルではトルコは更なる成長は望めず

ダロン・アジェミオールMITエコノミストによると、2001年の構造改革及び予算統制により数年間はトルコの生産性レベルが向上し、各分野で多様な新規企業が設立されたが、2007年以降は、汚職が増加し構造改革、司法改革が減速に転じている。産業の生産性上昇よりも国庫支出がトルコ経済を成長させてきており、持続的可能な成長傾向ではないとしている。(7月7日付HD紙10面)

治安

【治安関係】

●イズミルで逮捕されたISIL関係者はリクルーターか

1日のイズミル県等での一斉捜索で逮捕されたISIL関係者7名は、以前シリアでの戦闘に参加し、トルコではソーシャルメディアを通じたリクルート活動を行っていたと当局は発表。また、彼らは慈善活動の名目でISILに資金を送金していた。警察は、彼らがトルコ国内でテロを計画していた証拠は見られないとしている。(7月9日付HD紙3面)

●イズミルで爆薬を持ったPKKメンバー逮捕

2日イズミルにおいて、軍用爆薬C4を所持していたPKKメンバーの若者が逮捕された。犯人は、公園で地中に埋められていたC4爆薬を掘り返して、その後バス内に置こうとしたところを取り押さえられたという。(7月3日付C紙12面)

●ディヤルバクル県で路肩爆弾が爆発

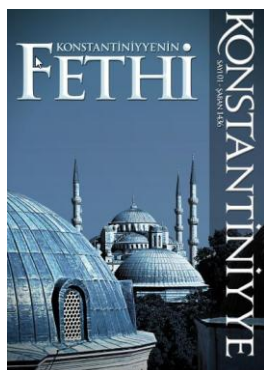
3日、ディヤルバクル県で路肩に設置された爆弾が爆発し、ジャンダルマ(軍警察)の車両に被害が発生。(7月3日付C紙12面)

●中国が、トルコ旅行をする中国人に注意喚起

5日、中国外務省のホームページにおいて、トルコを旅行する中国人に対する注意喚起が実施された。これは、中国におけるトルコ系ウイグル人に対する弾圧に対する抗議活動が、トルコで激しくなっていることを受けて出されたもの。最近イスタンブールでは、中国レストランが襲撃されたり、中国人と間違えられた韓国人が愛国主義を掲げるグループに襲撃されるなどの事件が相次いでいる。(7月6日付HD紙1面)

●ISILがトルコ語機関誌を創刊、トルコにおけるリクルートを強める模様

本年6月、ISILオンライン機関誌のトルコ語版「KONSTANIYYE' NIN FETHI(コンスタンティノーブル征服、の意味)」が創刊された。同機関紙は、前書きにおいて、「トルコの人々がISILについて学ぶことができるよう、ISILの理念やジハードに関する論文や説教、映像をトルコの人向けに翻訳して、同機関紙を毎月発刊することを決定した。」と記載。また「イスタンブールは、ムハンマドの予言どおりに、ISILによって近いうちに征服が実現されるだろう、イスタンブールが戦争無しにアッラーを称えるだけで征服されるだろう」とも記載。



(同機関紙より : <https://azelin.files.wordpress.com/2015/06/constantinople-magazine-1.pdf>)

●軍が、HDP シュルナック県副代表を暴行？

7日、HDP シュルナック県支部の副代表フェルハット・エンジュ氏は、2011年のトルコ軍の空爆により34人が死亡した場所において、トルコ陸軍兵士により暴行を受けたと主張、党に対して内務大臣とシュルナック県知事の辞任を求めよう促した。同副代表によると、軍警察が同地域の村人に対して村の周囲の牧草地に入るのを禁止していたことに対する抗議行動に参加した際、兵士と口論になり、暴行を受け銃を向けられたとしている。(7月9日付HD紙1面)

軍事

【シリア関連】

●トルコ軍国境沿いの司令官等がアンカラでシリア侵攻計画の協議？

トルコ軍は、アンカラの参謀本部において、5日シリアとの国境沿いに配置されている軍の司令官を招集し、シリア侵攻計画の詳細について協議した模様。一方、国軍は6日、そのような会合開催を否定する発表を行った。

(7月6日付HD紙1面)

●5万5000人収容のシリア難民キャンプをキリス県に建設中

トルコ災害対策庁(AFAD)は、キリス県において5万5000人を収容できる難民キャンプを建設中である。これは北シリアにおける人口密集地であるアザズ県において、今後ISILによる攻撃を予想してのもの。AFADによると、ISILの攻撃が行われた場合、最初の24時間で10万人の避難民がトルコのオンジュブナルに押し寄せると予測されている。トルコにとっての最大の脅威は、今後ISILの拡大により最大400万人の避難民がシリア各地からトルコに流入する恐れがあることである。キリス県では、人口10万8000人に対して既に12万3000人のシリア難民を受け入れているという。(7月9日HD紙4面)

●米国の対ISIL代表団トルコを訪問

7日および8日、米国の対ISIL代表団がトルコを訪問し、アンカラにおいて、トルコ政府とISIL対策の集中協議を行い、今後の対ISIL活動において、より協力を深めていくとの声明が出された。米国はトルコに対し、トルコ国内のインジルリック空軍基地をISIL空爆のために使用することを要求しており、トルコは見返りとして、シリア領内への安全地帯の設置と安全地帯への空爆援護を米国に要求しているとみられる。米軍とトルコ軍は、対ISIL攻撃

のため、武装無人飛行機をインジルリック空軍基地に配備することに合意しているが、トルコ政府がこれを許可しないため実現していない。

また、この協議の中で、米軍の将軍は、対ISIL対策のため1年間で5400人のシリア反体制派を訓練する計画について、現在わずか60人しか同訓練課程を修了していないことを認めた。(7月9日付HD紙9面)

社会

●バイラム中のフェリー大幅増便

イスタンブールの水上バス(IDO)は、バイラム中の7月16日から19日にかけて大幅な増便を行う。高速フェリボート及び国内線の海上バスは合わせて544本に増便され、総計2873便が運行する予定。この期間中、乗客約260万人と車両の乗船20万台を見込んでおり、7月15日夜にはイエニカプーヤロバ線で2時間おき、ペンディックーヤロバ線で1時間おきに24時間体制で運行される。(7月3日付H紙6面)

●エフェスがついに世界遺産に登録

ドイツのボンで開催されていた第39回ユネスコ世界遺産委員会において、21カ国からの票を得て、エフェス古代遺跡が世界文化遺産に登録された。今回38の申請の中からエフェス古代遺跡は21年目でようやく登録されることとなり、同じセルチュク・エリア内メルイェン・アナエビ、アヤスルック城、及びチュクリチホックと同時に世界遺産に登録された。これでトルコ国内の世界遺産は計15箇所となった。



(写真は7月5日付H紙インターネット版から)

登録年	トルコ世界遺産
1985	イスタンブール歴史地区
1985	ギョレメ国立公園とカッパドキア
1985	ディヴリーイの大モスクと病院
1986	ハットウシャ
1987	ネムルト・ダー
1988	クサントス・レトゥーン
1988	ヒエラポリス・パムツカレ
1994	サフランボル市街
1998	トロイの古代遺跡
2011	セリエモスクと教会
2012	チャタル・ホックの新石器時代遺跡
2014	オスマン帝国発祥の地ブルサとジュマルクズク
2014	ペルガモンとその重層的な文化的景観
2015	ディヤルバクル城塞とヘヴセル庭園の文化的景観
2015	エフェス古代遺跡

(7月6日付 HT紙6面)

●10人中3人が県外に移住

トルコ統計庁は、2014年度の住民戸籍登録システムに基づく、出生地に関する統計結果を初めて発表した。調査結果によると、トルコ国民の65.5%が出生した県で生活しており、31.3%が他県に移住、10人に3人が出生地と異なる場所で暮らしている事がわかった。

国内で出生したトルコ人	96.80%
出生地で暮らすトルコ人	65.50%
他県で暮らすトルコ人	31.30%
国外で出生したトルコ人	1.30%
出生地不明者	1.90%

イスタンブールへの移住者ランキング	
1	シヴァス出身者
2	オールドウ出身者
3	トカット出身者

出生地での生活を選択する県民ランキング		
1	カフラマンマラシュ出身者	90.4%
2	シャンルウルファ出身者	89.7%
3	アドゥヤマン出身者	89.6%

国外出生トルコ人ランキング		
1	ブルガリア	37.6%
2	ドイツ	22.2%
3	マケドニア	4.3%
4	オランダ	2.9%
5	ベルギー	2.6%

他県への移民を選択する県民ランキング		
1	ヤロヴァ出身者	30.4%
2	コジャエリ出身者	42.9%
3	テキルダール出身者	43.7%

(7月7日付 HT紙6面)

●バイラム中に700万人がバスを利用

バイラム休暇を目前に控え、数万人がバス会社に殺到している。トルコ・バス連合会会長のメフメット・エルドアン氏によると、今週から混雑は始まっており、7月10日以降ピークを迎える。この期間、エセンレルの大型バスターミナルでは一日10万人の乗客が利用し、700万人がバスを利用する予定。

空の便も混雑が予想され、トルコ航空は18便を増便、オヌルエアはバイラム期間中に16万人の乗客を見込んでいる。また、国外に移住したトルコ人の帰省ラッシュも始まっており、この2日間で3万5,052人が入国した。(7月8日付 HT紙19面)

●イスタンブール海事博物館がエクセレンス賞を受賞

トルコ海軍管轄のイスタンブール海事博物館が、旅行に関する世界的に有名な比較サイト「トリップアドバイザー」から、「エクセレンス賞」を受賞した。同賞は、トリップアドバイザーが毎年実施しており、海事博物館でのおもてなし、ガイド等を合わせた総合点で外国人観光客より高得点を得た結果によるもので、約2万点の展示品、約2千万にも及ぶ文献、16世紀の戦艦、1222年から残存している航海計器、1890年に日本で沈没したエルトゥールル号に関

する遺品など重要な文物が展示されている。(7月8日付 M紙15面)

●イズミット大橋、2016年開通予定

建設が進むイズミット大橋で、長さ124メートル、幅36メートル、重量2600トンの橋桁が、57メートルの高さの地点に11時間かけて設置された。この橋桁は、トルコで行われた工事の中で過去に例を見ない最も重い構造物。イズミット大橋は2016年に開通予定で、イスタンブールとイズミル間の移動が3.5時間に短縮される予定。

(7月6日付 H紙8面)

●イズミット大橋建設現場で女性が活躍

建設が進むイズミット大橋の工事現場では、11時間かけて2600トンの最重量橋桁が7月5日に設置された。このプロジェクトに従事するエンジニア100人の中には合計40人の女性作業員が含まれる。建設現場では、クレーンに繋がれたキャビンに乗って、特別な作業着を身にまとったエンジニアが高さ57メートルもある橋桁へ登っている。エンジニアの多くはイスタンブール県外から来ており、1年半から2年の間家族と離れ、朝8時から夕方6時まで建設現場で汗を流している。このプロジェクトは2019年に完了する予定。(7月9日付 HT紙17面)



(写真は7月9日付 HT紙インターネット版から)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（親与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
IDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İşİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜVID	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MIT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	International New York Times	INYT	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp
 WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html
 Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【イスタンブール県及び近郊県内邦人被害統計】

イスタンブール邦人被害統計								
2014.1.1～2015.7.9 ※総領事館に訴出があったものを集計								
年	窃盗		詐欺		ほったくりバー(相談)		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2014年		2件		4件		33件		5件
2015年	0件	4件	0件	2件	1件	8件	0件	2件

●今週は、ほったくりバーの被害の訴えが1件ありました。

★当館 HP 更新のお知らせ★

- 2015 年秋の文化行事のお知らせ (9月17～21日：「鬼太鼓座」和太鼓コンサート/9月20日：「祭 2015」バルタリマヌ 日本庭園秋祭り/10月8～26日：久保修「紙のジャポニスム 切り絵展」)
- 治安速報：イスタンブール (07/2)
- 海外安全対策情報 (2015年4月～6月) (07/07)